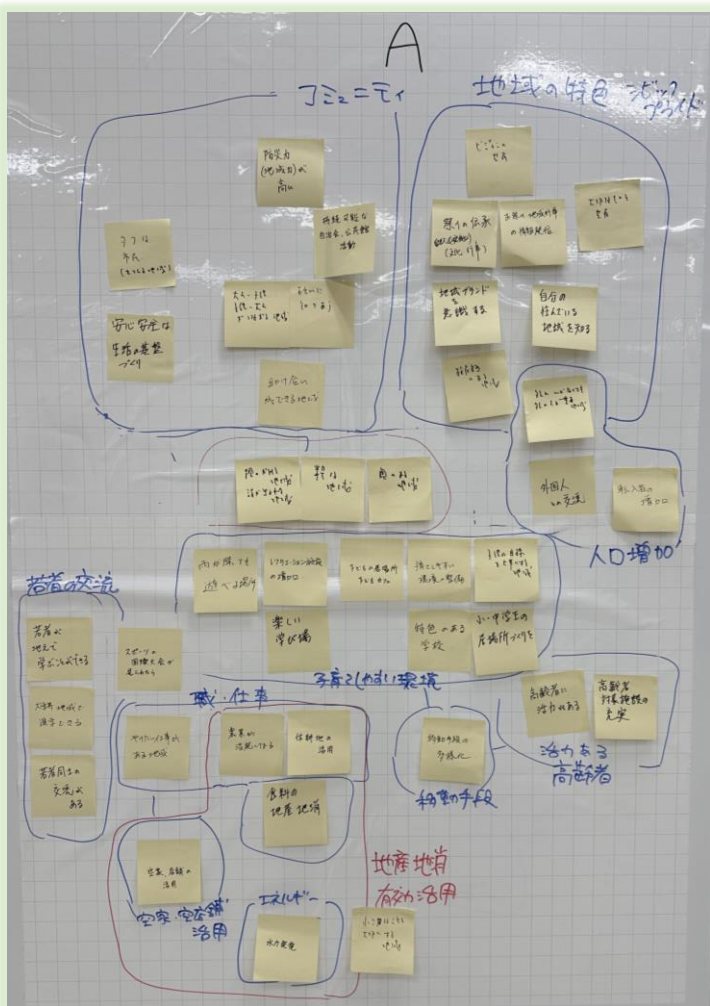


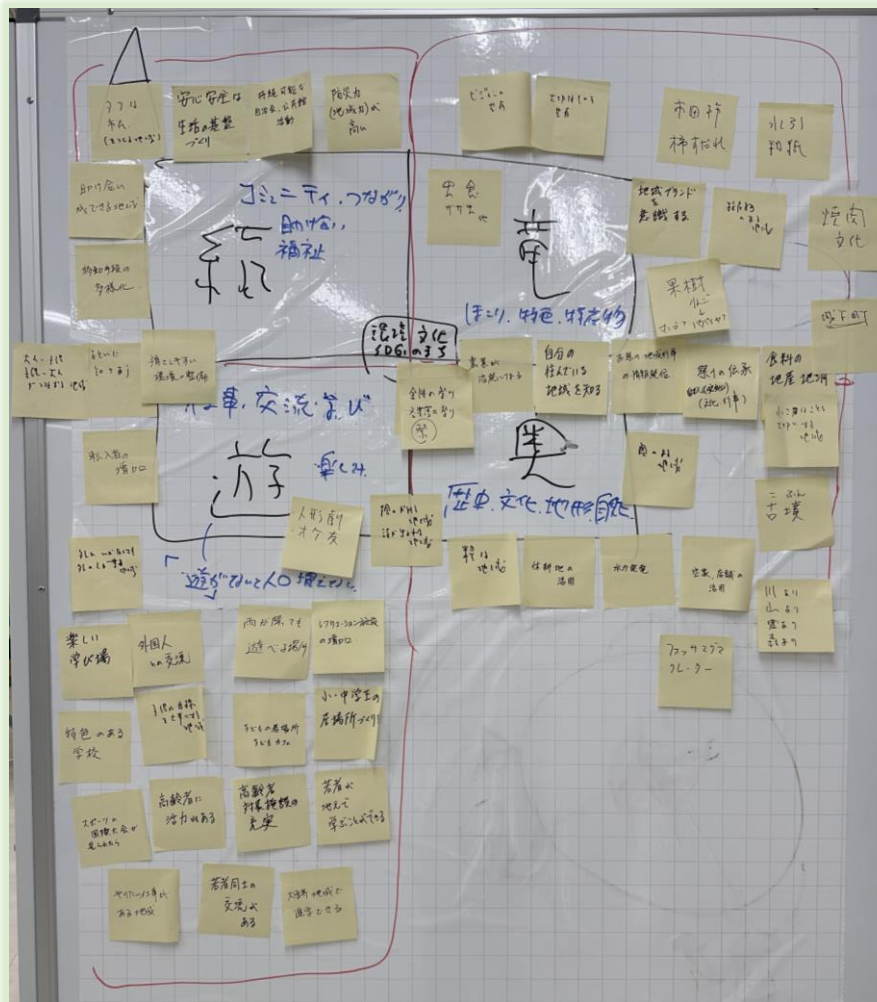
いいだ未来デザイン2028後期計画におけるまちづくりの方向性を検討するためのグループワークの結果

令和6年度 第2回 いいだ未来デザイン会議におけるグループワーク グループA

第1回グループワークの結果



第2回グループワークの経過 俯瞰する視点からの4分類



4つの要素を抽出した際のポイント

- 飯田市が持続可能で「暮らし豊かで元気なまち」であるために大切な要素として、「結」「竜」「奥」「遊」の4つの言葉で分類した。
- 「結」…コミュニティ、人のつながり、助け合い、福祉。強くする、広げる方向性が大切である。
- 「竜」…シビックプライド、地域の誇り、特色、特産物、ビジョンの共有。コミュニティの中で共通で恐れるもの、誇りであり、これを媒介にして地域の信頼関係を形成する。探し、創り、強くする方向性が大切である。
- 「奥」…地域の特色としての歴史、文化、地形、自然、資源。探し、よく知り、使う方向性が大切である。
- 「遊」…楽しみ、交流、仕事、教育、学び、遊びの文化。「遊」がある地域は外から人が来る魅力ある地域である。地域の人が楽しみ、それを周りへ知らせることが大切である。

いいだ未来デザイン2028後期計画におけるまちづくりの方向性を検討するためのグループワークの結果 令和6年度 第2回 いいだ未来デザイン会議におけるグループワーク グループA

ポイント – 結果共有のための発表から

- まちづくりの方向性の要素として、それぞれを漢字一文字で表すと、「結」(つながり)、「竜」(誇り)、「奥」(文化的、地形的、歴史的な奥の深さ)、「遊」(楽しみ)。
- 「結」は飯田がもともと「結いの田」であるため、大事なキーワードである。コミュニティが弱まってきているという意見があり、いかにして強められるか、新しい人に広げられるか、という方向性が必要である。コミュニティスクールを軸にした学校単位の繋がりや集落単位の繋がり、まち全体のつながりといった様々なレベルのつながりを強め、広げることが大切である。
- 「竜」はシビックプライド、特色の強い地域であり、どんどん磨き新しいものを創っていくという方向性が必要である。間接的な信頼関係を創造し維持する上で大切な視点である。
- 「奥」は飯田の歴史・文化・自然を良く知り、探し、活かす方向性が必要である。空き家や遊休農地の利活用も大切な視点である。
- 「遊」は単に遊ぶというよりは、こどもの学びや若者の交流、仕事のやりがい、また高齢者が健康で暮らせる地域であることが必要である。
- これらの要素が揃っている地域が、「暮らし豊かで元気なまち飯田」である。

令和6年4月30日(火) 令和6年度 第2回 いいだ未来デザイン会議 個別及びグループワークシート

いいだ未来デザイン2028後期計画におけるまちづくりの方向性を検討するためのワークシート
～ 持続可能な地域を創造していく上で大切にすべき視点の抽出 ～

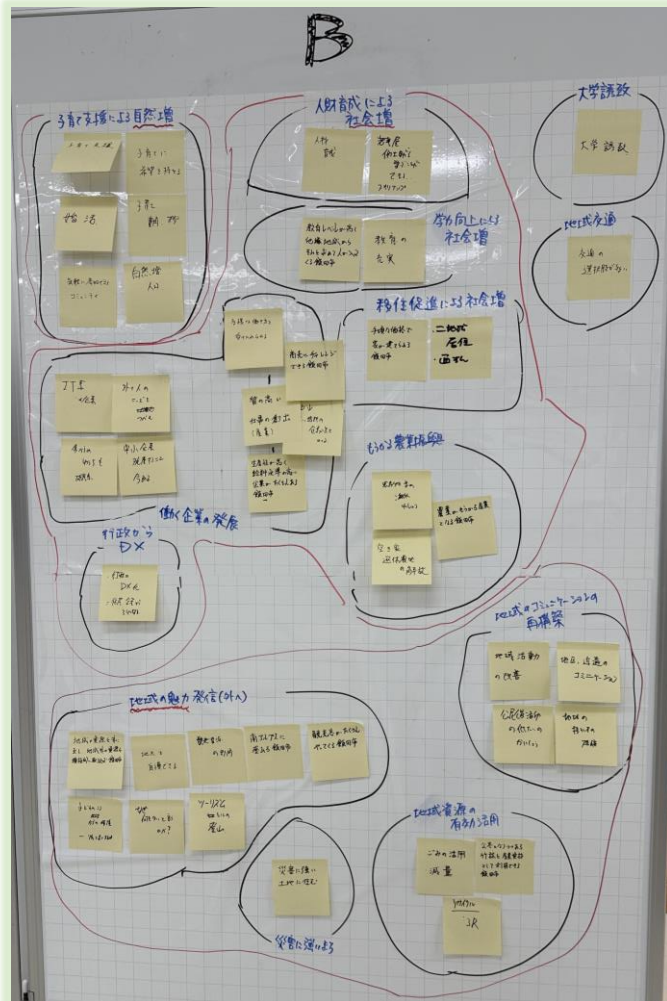
本日の目標
第1回会議のグループワークでは、「持続可能な地域とはこうあることが望ましい」「こうなったらいいな」という視点でご意見をお出しいただきましたが、今回は、お出しいただいた「こうなったらいいな」を改めて俯瞰し、4つ程度にグループ化(再グループ化 または グループのグループングすることで、俯瞰的な視点を導き出す)した上で、大切にすべき視点(=まちづくりの方向性をまとめる際の要素となるもの)を含めて意見交換いただき、グループとしての意見をセンテンス(文章)にまとめていただき共有することを目標とします。

長期的都市像	環境文化都市	
基本構想	いいだ未来デザイン2028 ○キャッチフレーズ：リニアがもたらす大交通時代に「暮らし豊かなまち」をデザインする ～合言葉はムトス 誰かが主役 飯田未来舞台～ ○未来ビジョン：8つの暮らし・まちの姿 ○人口ビジョン：展望する定住人口：2028年 96,000人、2045年 91,000人 / 展望する休日滞在人口率：2028年 1.44、2045年 2.00	
基本計画 【いいだ未来デザイン2028後期計画】	コミットする課題	くらし豊かで元気なまち 飯田
	持続可能な地域とは？ (まちづくりの方向性の要素)	要素① 結 (様々のレベルの繋がり・コミュニティ)が広がる地域の実現 具体的な内容：持続可能な自治体、公民館活動、777市民工作、町内会づくり、安全安心な生活の基盤
		要素② 竜 地域の誇り、特色を磨くと共に新しく創造する 具体的な内容：地域ブランド、誇り、特色、特産物、子ども人も地域ビジョンを持つ
		要素③ 奥 歴史文化、自然をよき知り、探し活かす地域 具体的な内容：空き家、店舗の活用、祭の継承、地産地消
		要素④ 遊 地域の人が楽しむことで結果として遠くからも自然に人が集まる地域 具体的な内容：仕事、交流、学び、楽しみ、やりがい
取組のイメージ keyword		

いいだ未来デザイン2028後期計画におけるまちづくりの方向性を検討するためのグループワークの結果

令和6年度 第2回 いいだ未来デザイン会議におけるグループワーク グループB

第1回グループワークの結果



第2回グループワークの経過
俯瞰する視点からの4分類



4つの要素を抽出した際のポイント

- 大きく4つに区分すると「教育」「働く」「環境」「地域の魅力」と仮置き
- 「観光」の視点も多く出されていたが、産業としての観光という意味ではなく、「地域の魅力を発信する」意味なので、「地域の魅力」に位置づける。
- 「教育」だけではなく「子育て支援」も加えるべき。バランス的には「福祉」の視点も必要ではないか。「教育」と「子育て支援」のところは、「福祉」を含めて「生活」という概念で括る。「暮らしやすさ」がポイントになるのではないか。
- エネルギー面で大きく転換して、地域の中で稼げるようにしていくことは、持続可能性に大いに繋がる。今の考え方に固執することなく、思いっきり考え方を変わっていかないといけない時代。個人で儲けではなく、地域でどうしていくかという考え方で取り組んでいく必要がある。
- ただ、この地域の現状を見た場合のSustainableな議論の中心は、人不足ではないか、そちらの方が優先順位が高く、次が環境ではないか。
- 今回の議論で一番時間を割いた、「環境か経済か」ではなく「環境も経済も」という視点、バランスの視点は重要。バランス、「同時解決」はSDGsの重要な考え方である。

いいだ未来デザイン2028後期計画におけるまちづくりの方向性を検討するためのグループワークの結果

令和6年度 第2回 いいだ未来デザイン会議におけるグループワーク グループB

ポイント – 結果共有のための発表から

- 大きなテーマとして、人口の課題、子育て・教育の課題、強い経済の課題、人と人との繋がり4つをベースに検討した。
- 結果的には、4つの要素のバランスが一番大事で、それはちょうどSDGsの視点である「同時解決」に当たるという議論がされた。
- コミットする課題は、「人口減少・少子高齢化の緩和と適応」とし、飯田市が直面している最も大きな課題は、人口減少であり、特に社会増を目指すことが持続可能性の向上に寄与するのではないかと考えた。
- 教育・子育ての部分は、「安心して子育てできる暮らしやすいまち」として、主に教育と子育て支援、防災を含めた安全・安心の視点をまとめた。
- 強い経済では、「生産性が高く給料が上がっていく企業がたくさんある」とし、経済が持続的に循環できることが、持続可能な社会のベースになるため、そうした視点での産業振興が大切という意見が出された。
- 環境では、長期的な視点で見た時に、私達の目指すべき一番の方向性は、「エネルギー・水・食料の地産地消」として、生活になくてはならないものを地産地消できるような仕組みがある地域にしていく視点の重要性が確認された。
- 地域の魅力では、「信州の南の玄関口としまして日本中から愛される飯田」として、特に、外の人から「愛される」という視点が大切であるとの意見が出された。

令和6年4月30日(火) 令和6年度 第2回 いいだ未来デザイン会議 個別及びグループワークシート

いいだ未来デザイン2028後期計画におけるまちづくりの方向性を検討するためのワークシート
～ 持続可能な地域を創造していく上で大切にすべき視点の抽出 ～

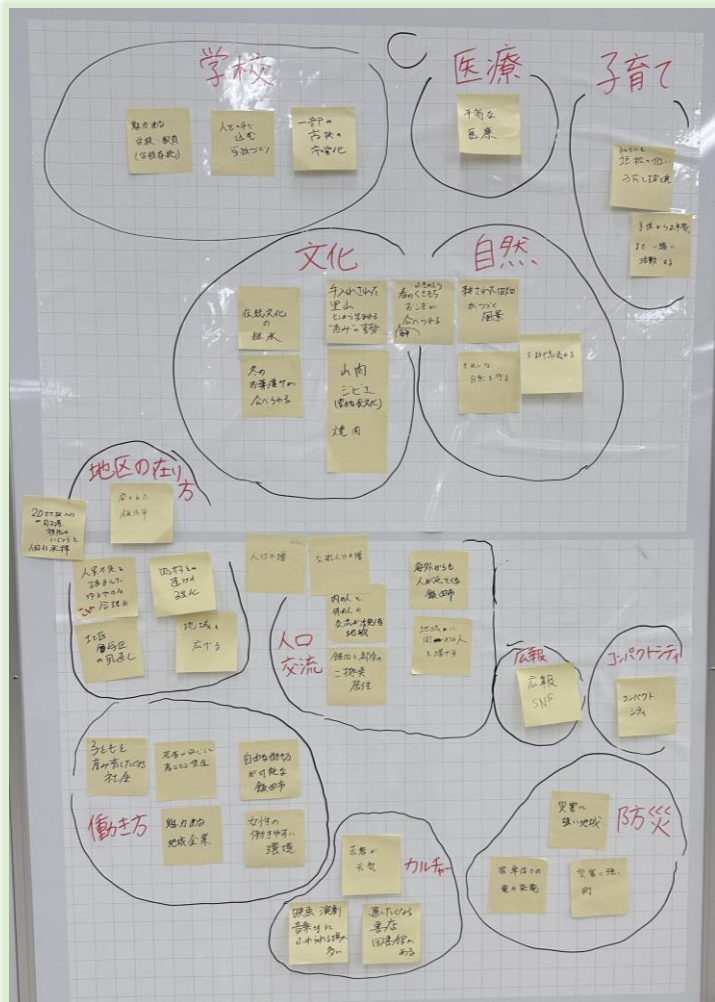
本日の目標
第1回会議のグループワークでは、「持続可能な地域とはこうあることが望ましい」「こうなったらいいな」という視点でご意見をお出しいただきましたが、今回は、お出しいただいた「こうなったらいいな」を改めて俯瞰し、4つ程度にグループ化（再グループ化 または グループのグルーピングすることで、俯瞰的な視点を導き出す）した上で、大切にすべき視点（＝まちづくりの方向性をまとめる際の要素となるもの）を含めて意見交換いただき、グループとしての意見をセンテンス（文章）にまとめていただき共有することを目標とします。

長期的都市像	環境文化都市
基本構想	いいだ未来デザイン2028 ○キャッチフレーズ：リニアがもたらす大交流時代に「くらし豊かなまち」をデザインする ～合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台～ ○未来ビジョン：8つのくらし・まちの姿 ○人口ビジョン：展望する常住人口：2028年 96,000人、2045年 91,000人 / 展望する休日滞在人口率：2028年 1.44、2045年 2.00
基本計画 【いいだ未来デザイン2028後期計画】	コミットする課題 人口減少・少子高齢化の緩和と適応 ～社会増をめがけて～ 4要素のバランス!
	持続可能な地域とは？ (まちづくりの方向性の要素)
	要素① 安心して子育てできる暮らしやすいまち 子どもの声が聞えるまち 具体的な内容： 保育園、子育て休暇、教育福祉の充実、婚活、人材育成、教育レベル向上、安全(防災)
	要素② 生産性が高く給料が上がっていく企業がたくさんある 具体的な内容： 人的投資、省人化、デジタル化、IT化、もうかる農業、エネルギー産業
要素③ エネルギー・水・食料の地産地消 余剰分をかせぐ 具体的な内容： 再生可能エネルギー、街の集約、土地・農地のメリハリ、森林資源の利活用、水産物の確保	
要素④ 信州の南の玄関として日本中から愛される飯田 具体的な内容： 観光、地域の魅力発信、地域のコミュニケーション、地域の財産活用	
取組のイメージ keyword	

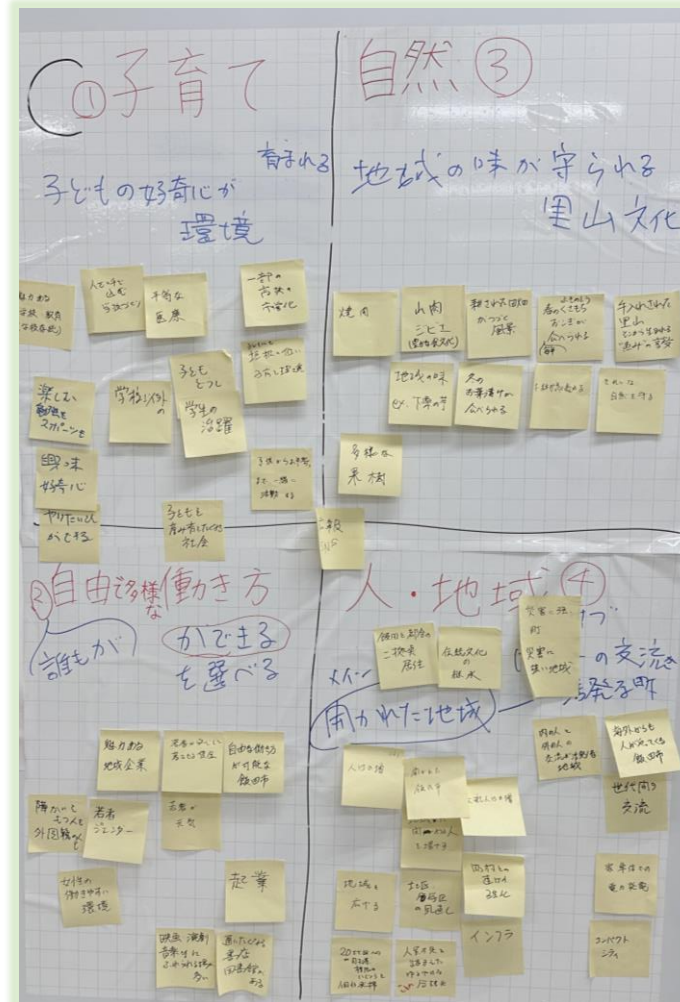
いいだ未来デザイン2028後期計画におけるまちづくりの方向性を検討するためのグループワークの結果

令和6年度 第2回 いいだ未来デザイン会議におけるグループワーク グループC

第1回グループワークの結果



第2回グループワークの経過 俯瞰する視点からの4分類



4つの要素を抽出した際のポイント

- 親が行う子育てだけでなく、学生などの子どもが活躍する視点も必要
- 地元の短大を引き入れるべき
- 興味、好奇心に対応できる環境があると良い。
- 里山で育まれた食文化、今ある味が重要
- 果樹、花など多様な品種が地元でとれる環境は大きな特徴。もっとアピールすべき。
- 地元のことを勉強すれば起業にもつながる。
- ロットが少ない。多様性があるのは強み
- 仕事の後の自分の時間も大事
- 天龍峡などに起業する人が集まってきている。そのような人が増えれば変わるのでは。
- 誰もが自由で多種多様な働き方ができることが望ましい。選べるのは一歩手前
- 地区のまとまりが強く、飯田市、南信州の魅力が外の人に伝わっていない。
- 飯田市は20地区という形が大きい。地区も自治体も開かれていくと変わっていくのでは。
- 祭りは存続すべきものだが、自治の部分が旧村単位で変わっていない。
- 子ども、若者、里山、文化、地域などそれぞれがつながると思う。

いいだ未来デザイン2028後期計画におけるまちづくりの方向性を検討するためのグループワークの結果

令和6年度 第2回 いいだ未来デザイン会議におけるグループワーク グループC

ポイント – 結果共有のための発表から

- コミットする課題は、「人口減少・若者が活躍する」として意見交換をした。
- 「子どもの好奇心が育まれる環境」では、子ども自身が楽しむ環境をつくれば、いずれ進学した後、帰ってきてくれるのではないかと。学生が活躍する魅力ある学校が必要ではないかとの意見が出された。
- 「誰もが自由で多様な働き方ができる」として、「起」業しやすい環境、誰もがという視点から女性も障がいがある人も外国籍の人もみんなが働ける、働き方によって、どんな人でも働きやすくなる。アフター5では、働き方として、オンとオフを切り分けつつ、楽しく生活を送れるような文化やカルチャーといった遊べる場所がないと面白くないとの意見も出ている。
- 「地域の味が守られる里山文化」は、ジビエや焼肉はもちろん、非常に豊富な果物もあることを知った。このことは、要素②の「起業」にもつながる。子どもたちがこの地域を面白いと思ってもらえるように、地域のことを知ってほしいとの思いも込めた。
- 要素①・②・③は、循環する関係性にあると考えた。
- そのために必要なのが、4つ目の要素である「開かれた地域ー内外の交流が活発なまち」で、地区ごとに固まっていた開かれていない。海外も含めて内外の交流が活発なまちになり、地域が開かれれば、それぞれが関係し合っ、要素①～③もうまく循環する。

令和6年4月30日(火) 令和6年度 第2回 いいだ未来デザイン会議 個別及びグループワークシート

いいだ未来デザイン2028後期計画におけるまちづくりの方向性を検討するためのワークシート
～ 持続可能な地域を創造していく上で大切にすべき視点の抽出 ～

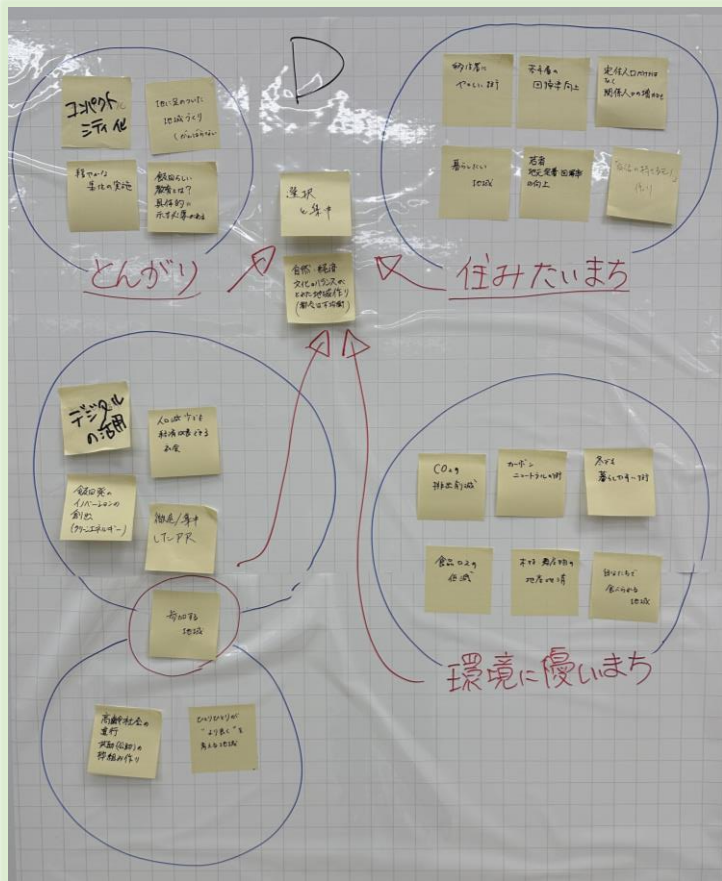
本日の目標
第1回会議のグループワークでは、「持続可能な地域とはこうあることが望ましい」「こうなったらいいな」という視点でご意見をお出しいただきましたが、今回は、お出しいただいた「こうなったらいいな」を改めて俯瞰し、4つ程度にグループ化（再グループ化 または グループのグルーピングすることで、俯瞰的な視点を導き出す）した上で、大切にすべき視点（＝まちづくりの方向性をまとめる際の要素となるもの）を含めて意見交換いただき、グループとしての意見をセンテンス（文章）にまとめていただき共有することを目標とします。

長期的都市像	環境文化都市
基本構想	<p>いいだ未来デザイン2028</p> <p>○キャッチフレーズ：リニアがもたらす大交通時代に「くらし豊かなまち」をデザインする ～合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台～</p> <p>○未来ビジョン：8つのくらし・まちの姿</p> <p>○人口ビジョン：展望する定住人口：2028年 96,000人、2045年 91,000人 / 展望する休日滞在人口率：2028年 1.44、2045年 2.00</p>
基本計画 【いいだ未来デザイン2028後期計画】	<p>コミットする課題</p> <p>人口減少・若者が活躍する</p>
	<p>持続可能な地域とは？ (まちづくりの方向性の要素)</p> <p>要素① 子どもの好奇心が育まれる環境 具体的な内容：医療、学生の活躍、魅力ある学校</p>
	<p>要素② 誰もが自由で多様な働き方ができる 具体的な内容：起業、女性や障がい者も、外国籍の人も、地域企業の魅力発信、アフター5</p>
	<p>要素③ 地域の味が守られる里山文化 具体的な内容：ジビエ、多様な果樹、食文化、ゼロカーボン、木材の活用</p>
取組のイメージ keyword	<p>要素④ 開かれた地域ー内外の交流が活発なまち 具体的な内容：二拠点居住、伝統文化の継承、災害に強い、町村連携の強化、地域を元気づける、関わる人が増やす</p>

いいだ未来デザイン2028後期計画におけるまちづくりの方向性を検討するためのグループワークの結果

令和6年度 第2回 いいだ未来デザイン会議におけるグループワーク グループD

第1回グループワークの結果



第2回グループワークの経過
俯瞰する視点からの4分類



4つの要素を抽出した際のポイント

- プライドをもって飯田市という魅力づくりに取り組むことが重要であり、どのような誇りを持ちたいかという視点を大切にしながら検討
- 誇りをもって住みたいまちとは…
 - ・相手に伝えられる誇りを持つ
 - ・自分なりに飯田の魅力を答えられる
 - ・帰ってきたくなくなるのも誇りのひとつ
 - ・定住よりも度々来てもらえる地域
- 選択と集中でとがった魅力とは…
 - ・多様を許容する
 - ・物理的に距離があるため、デジタルは必須
 - ・都会化しない地に足の着いた地域づくり
- “つながって” 学ぶ飯田らしさとは…
 - ・物理的な距離があるため、デジタルは必須
 - ・地域内外や歴史と繋がる
 - ・地域外と繋がることで学べる視点がある
- 守りつつも未来へ攻める適度（住みたい）な田舎とは…
 - ・りんごの産地（南限）であり続ける
 - ・子どもや孫の未来を考えるまち

いいだ未来デザイン2028後期計画におけるまちづくりの方向性を検討するためのグループワークの結果

令和6年度 第2回 いいだ未来デザイン会議におけるグループワーク グループD

ポイント – 結果共有のための発表から

- コミットする課題として、「誇りやプライドをもつ・シビックプライド」をキーコンセプトに掲げて意見交換をした。
- 持続可能な地域とはという要素として、
 - ① 誇りをもって住みたいまち
 - ② 選択と集中で“とがった”魅力
 - ③ “つながって” “学ぶ” “飯田らしさ”
 - ④ 守りつつも、未来へ攻める“適度（住みたい）な田舎”
 の4つを挙げた。
- 特に「シビックプライド」について、意見交換がされ、地域に誇りを持っているか、「住みたい」「帰ってきたい」「帰っておいで」と言えるかというところに重点を置きながらどのようなまちづくりをしていくべきかについて検討した。
- デジタルや関係人口、外からの交流などに取り組みつつも、地域の歴史や暮らしを、子どもから高齢者までしっかり学べているか、考えられるか、そして、伝えられるかをもう一度見直して、そこを大切に守りながら魅力として、掲げていくことが未来を創る上で重要となってくるのではないかという意見が出された。

令和6年4月30日(火) 令和6年度 第2回 いいだ未来デザイン会議 個別及びグループワークシート

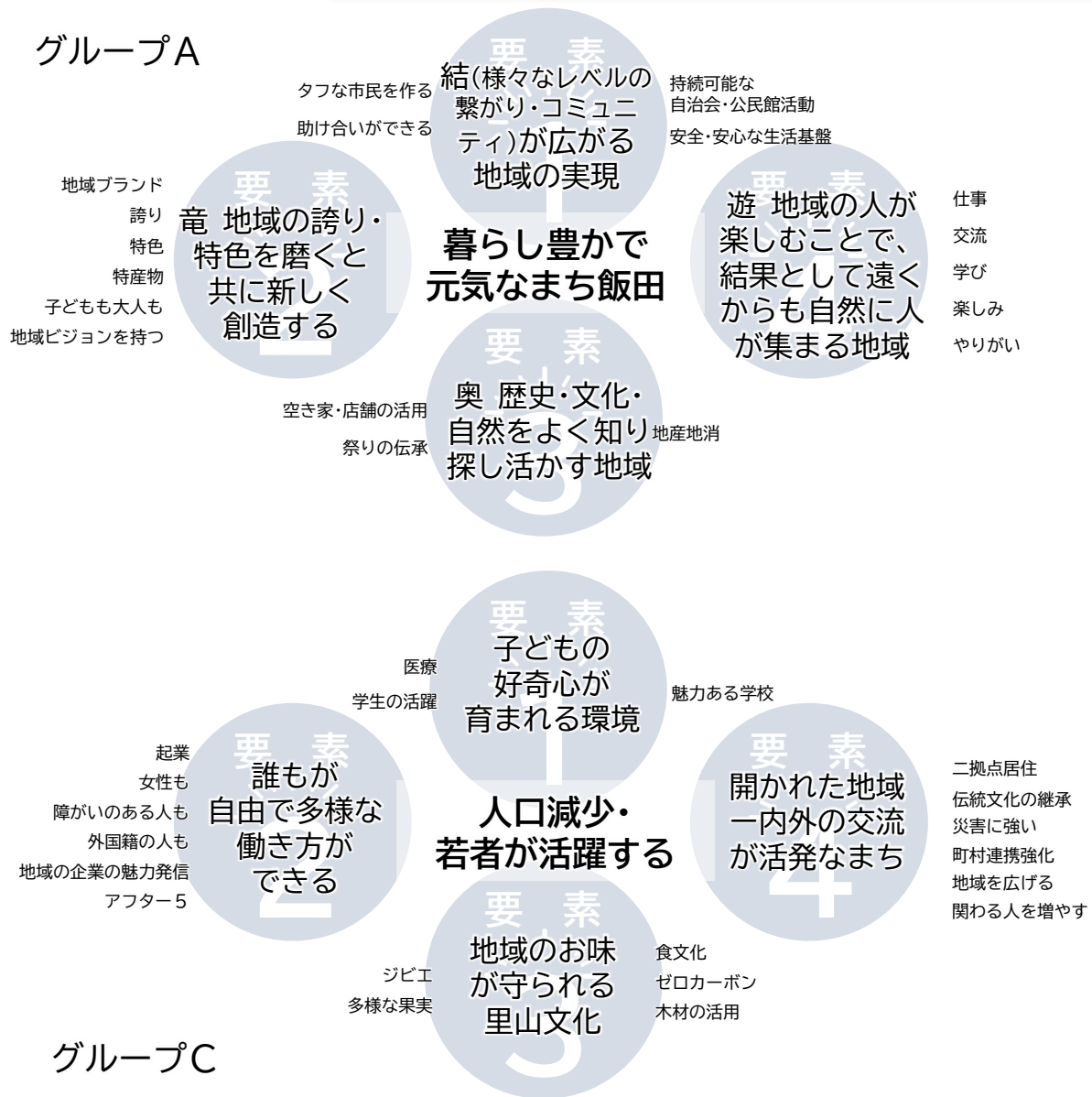
いいだ未来デザイン2028後期計画におけるまちづくりの方向性を検討するためのワークシート
～ 持続可能な地域を創造していく上で大切にすべき視点の抽出 ～

本日の目標
第1回会議のグループワークでは、「持続可能な地域とはこうあることが望ましい」「こうなったらいいな」という視点でご意見をお出しいただきましたが、今回は、お出しいただいた「こうなったらいいな」を改めて俯瞰し、4つ程度にグループ化（再グループ化 または グループのグルーピングすることで、俯瞰的な視点を導き出す）した上で、大切にすべき視点（＝まちづくりの方向性をまとめる際の要素となるもの）を含めて意見交換いただき、グループとしての意見をセンテンス（文章）にまとめていただき共有することを目標とします。

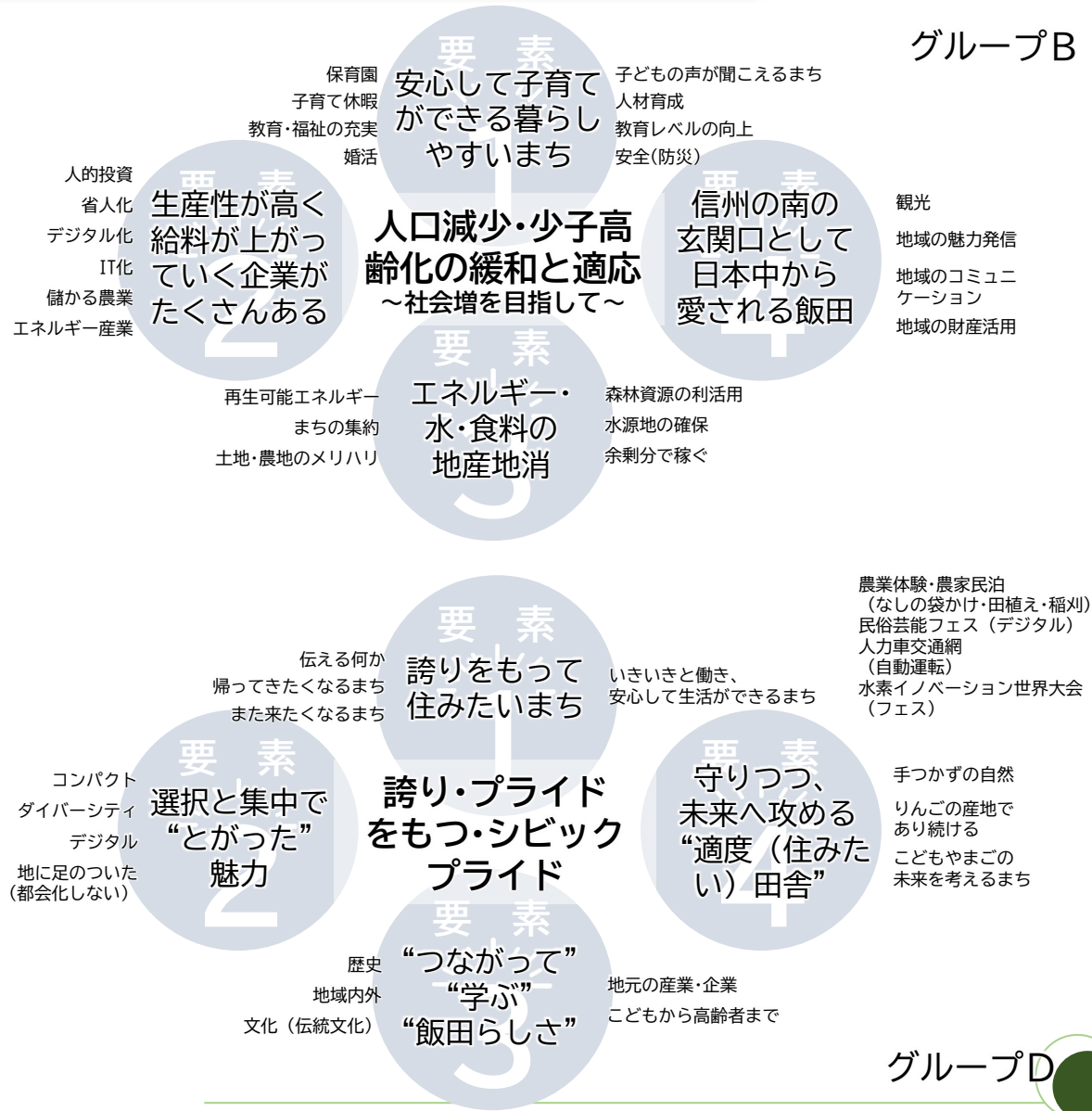
長期的都市像	環境文化都市
基本構想	いいだ未来デザイン2028 ○キャッチフレーズ：リニアがもたらす大交通時代に「くらし豊かなまち」をデザインする ～合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台～ ○未来ビジョン：8つのくらし・まちの姿 ○人口ビジョン：展望する定住人口：2028年 96,000人、2045年 91,000人 / 展望する休日滞在人口率：2028年 1.44、2045年 2.00
基本計画 【いいだ未来デザイン2028後期計画】	コミットする課題 誇りやプライドをもつ・シビックプライド
	持続可能な地域とは？ (まちづくりの方向性の要素)
	要素① 誇りをもって住みたいまち 具体的な内容：伝える何か、帰ってきたい、帰ってきたくなるまち、いきいきと働き、安心して生活ができる。
	要素② 選択と集中で“とがった”魅力 具体的な内容：コンパクト、ダイバーシティ、デジタル、地味足のかた(都会化しない)
	要素③ “つながって” “学ぶ” “飯田らしさ” 具体的な内容：歴史、地域内外、文化(伝統文化)、地元産業企業、こどもから高齢者
要素④ 守りつつも、未来へ攻める“適度(住みたい)田舎” 具体的な内容：手がかかる自然、リニアの産地(あつちや、こどもまの未来を考へるまち)	
取組のイメージ keyword	農体験・農家民泊、民俗芸能フェス、人力車交通網、木素リデザイン (なしの籠がな)(田植之箱) (フェス) (自動運転) 世界大会

いいだ未来デザイン2028後期計画におけるまちづくりの方向性を検討するためのグループワークの結果 令和6年度 第2回 いいだ未来デザイン会議におけるグループワーク まとめ

グループA



グループB



グループC

グループD